

再評価結果（令和5年度事業継続箇所）

担当課：道路局 国道・技術課

担当課長名：長谷川 朋弘

事業名	一般国道474号 <small>さんえんなんしん</small> 三遠南信自動車道 <small>あおくずれとうげ</small> 青崩峠道路	事業区分	一般国道	事業主体	国土交通省 中部地方整備局																									
起終点	自：長野県飯田市南信濃八重河内 至：静岡県浜松市天竜区水窪町奥領家			延長	5.9km																									
事業概要	<p>一般国道474号三遠南信自動車道は、長野県飯田市を起点とし、静岡県浜松市に至る延長約100kmの高規格道路である。</p> <p>本事業の一般国道474号三遠南信自動車道青崩峠道路は、長野県飯田市南信濃八重河内から静岡県浜松市天竜区水窪町奥領家に至る延長5.9kmの自動車専用道路であり、広域ネットワークの構築、災害に強い道路機能の確保、救急医療活動の支援、地域活性化の支援を主な目的として事業を推進している。</p>																													
S58年度事業化	—	H23年度用地着手	H23年度工事着手																											
全体事業費	676億円	事業進捗率 (令和4年3月末時点)	約67%	供用済延長	0.0km																									
計画交通量	2,800台/日																													
費用対効果 分析結果	<table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 20%;">B/C</td> <td style="width: 20%;">1.3</td> <td style="width: 20%;">総費用</td> <td style="width: 20%;">1,376/7,952億円</td> <td style="width: 20%;">総便益</td> <td style="width: 20%;">3,534/10,142億円</td> </tr> <tr> <td><small>(事業全体)</small></td> <td><small>(1.6)</small></td> <td>事業費</td> <td>1,138/7,346億円</td> <td>走行時間短縮便益</td> <td>3,292/9,346億円</td> </tr> <tr> <td><small>(残事業)</small></td> <td><small>(2.6)</small></td> <td>維持管理費</td> <td>216/502億円</td> <td>走行経費減少便益</td> <td>208/717億円</td> </tr> <tr> <td></td> <td><small>(7.2)</small></td> <td>更新費</td> <td>23/104億円</td> <td>交通事故減少便益</td> <td>34/79億円</td> </tr> </table>	B/C	1.3	総費用	1,376/7,952億円	総便益	3,534/10,142億円	<small>(事業全体)</small>	<small>(1.6)</small>	事業費	1,138/7,346億円	走行時間短縮便益	3,292/9,346億円	<small>(残事業)</small>	<small>(2.6)</small>	維持管理費	216/502億円	走行経費減少便益	208/717億円		<small>(7.2)</small>	更新費	23/104億円	交通事故減少便益	34/79億円	<small>(残事業)/(事業全体)</small> <small>(事業全体)</small>	<small>(残事業)/(事業全体)</small> <small>(事業全体)</small>	<small>(残事業)/(事業全体)</small> <small>(事業全体)</small>	<small>(残事業)/(事業全体)</small> <small>(事業全体)</small>	基準年 令和4年
B/C	1.3	総費用	1,376/7,952億円	総便益	3,534/10,142億円																									
<small>(事業全体)</small>	<small>(1.6)</small>	事業費	1,138/7,346億円	走行時間短縮便益	3,292/9,346億円																									
<small>(残事業)</small>	<small>(2.6)</small>	維持管理費	216/502億円	走行経費減少便益	208/717億円																									
	<small>(7.2)</small>	更新費	23/104億円	交通事故減少便益	34/79億円																									
感度分析の結果	<p>【事業全体】交通量変動：B/C=1.1~1.4(交通量 ±10%) 【残事業】 B/C=2.3~2.8(交通量 ±10%)</p> <p>事業費変動：B/C=1.3~1.3(事業費 ±10%) B/C=2.4~2.8(事業費 ±10%)</p> <p>事業期間変動：B/C=1.2~1.3(事業期間±20%) B/C=2.5~2.6(事業期間±20%)</p>																													
事業の効果等	<p>①円滑なモビリティの確保</p> <ul style="list-style-type: none"> ・並行区間等の年間渋滞損失時間の削減が見込まれる。 <p>②国土・地域ネットワークの構築</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新たに拠点都市間を高規格道路で連絡するルートを構成する。 ・隣接した日常活動圏中心都市間を最短時間で連絡する路線を構成する。 <p>③個性ある地域の形成</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域連携プロジェクト（第2次三遠南信地域連携ビジョン）を支援する。 ・アクセスが向上する主要な観光地（遠山温泉郷等）が存在する。 <p>④安全で安心できる暮らしの確保</p> <ul style="list-style-type: none"> ・三次医療施設（飯田市立病院）へのアクセス向上が見込まれる。 <p>⑤災害への備え</p> <ul style="list-style-type: none"> ・緊急輸送道路が通行止めになった場合に大幅な迂回を強いられる区間の代替路線を形成する。 <p>⑥地球環境の保全</p> <ul style="list-style-type: none"> ・CO2排出量の削減が見込まれる。 <p>⑦生活環境の改善・保全</p> <ul style="list-style-type: none"> ・NO2排出量の削減が見込まれる。 ・SPM排出量の削減が見込まれる。 <p>⑧他のプロジェクトとの関係</p> <ul style="list-style-type: none"> ・他機関との連携プログラム（南信州リニア未来ビジョン）に位置づけられている 																													
関係する地方公共団体等の意見	地域から頂いた主な意見等： 三遠南信道路建設促進期成同盟会から早期整備を要望																													

長野県知事の意見：

本事業は、広域ネットワークの構築、災害に強い道路機能の確保、救急医療活動の支援、地域活性化に寄与する極めて重要な事業です。

ついては、事業を継続し、積極的な予算確保により、早期開通を図るよう強く要望します。

また、事業の実施にあたっては、一層のコスト縮減に努められるようお願いいたします。

浜松市長の意見：

「対応方針（原案）」案に対し異議はない。

一般国道474号三遠南信自動車道は、三遠南信地域を結ぶ地域連携の基軸であり広域交流や物流の活性化において重要な役割を果たすほか、災害時には「命の道」として、信頼性の高いネットワークを構築する高規格道路である。

現在事業中の佐久間道路・三遠道路（東栄IC～鳳来峡IC）の令和7年度開通予定に向けて工事が順調に進められていることに加え、水窪佐久間道路においては、昨年5月15日に中心杭打ち式が開催され、用地買収に向けた地元調整が進んでいることから全線開通に向けた地元の期待が高まっている。

事業実施に当たっては、一層のコスト縮減など、より効率的な事業促進に努められるようお願いしたい。

事業評価監視委員会の意見

・対応方針（原案）は妥当である。

事業採択時より再評価実施時までの周辺環境変化等

- ・国道152号の長野県と静岡県境は通行不能区間となっているため、越県するには狭隘で脆弱な市道を利用する必要がある。
- ・下伊那地域は事前通行規制区間が多く存在し、平成22年7月豪雨では通行止めにより旧上村・旧南信濃村が一時孤立している。
- ・平成22年7月豪雨災害時のような通行止めが発生した場合、救急医療施設へのアクセスが絶たれ、救命救急が困難な状況となる。
- ・遠山郷周辺と静岡県を結ぶ国道152号は通行不能区間であるため、観光交流・地域間交流に支障をきたしている。

事業の進捗状況、残事業の内容等

・事業進捗率は約67%、用地取得率は100%。（令和4年3月末時点）

事業の進捗が順調でない理由、今後の事業の見通し等

・小嵐IC（仮称）～水窪北IC（仮称）間（延長5.9km）について早期供用を目指して整備を推進する。

施設の構造や工法の変更等

- ・3次元モデル（BIM/CIM）を構築・活用することで、事業の効率化・高度化を図っていく。
- ・技術の進展に伴う新工法の採用等による新たなコスト縮減に努めながら事業を推進していく。

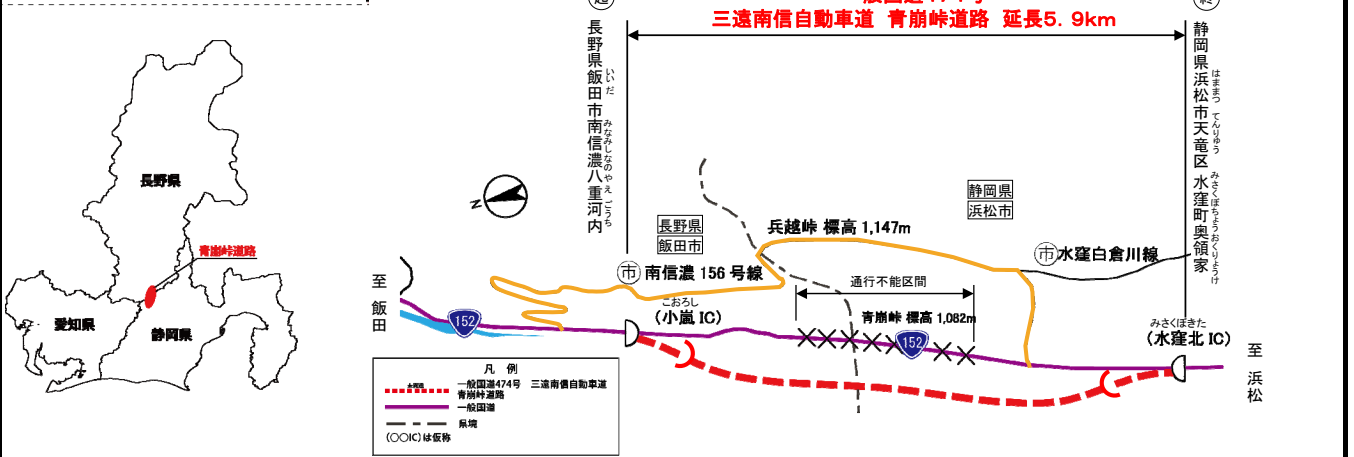
対応方針

事業継続

対応方針決定の理由

以上の状況を勘案すれば、当初からの事業の必要性、重要性は変わらないものと考えられる。

事業概要図



※ 総費用、総便益とその内訳は、各年次の価額を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したもの。